

保幼小接続スタートカリキュラム作り

～より良いスタートカリキュラムを目指して～

- ・東海村では、毎年小学校が持ち回りでスタートカリキュラムについて、保幼小接続研修会と題し村内の保育者・学校教諭等に公開している。
- ・よりよいスタートカリキュラム作りを目指して、学区内の公私立の保育者、と小学校教諭が連携し協議を行う。
- ・協議内容を基に、スタートカリキュラムの見直しや1年生を受け入れる環境作り、授業の導入方法の検討等について行う。

参加者 小学校教諭：学区内の幼児教育施設3か所の保育者(公私立)：教育委員会担当
準備 ・PC ・電子黒板 ・Zoom アカウント

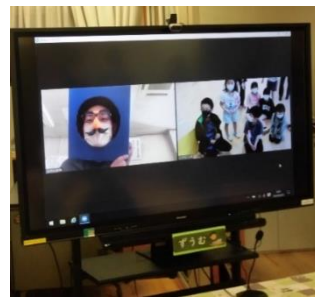


小学校教諭(教務主任・1年生担任)と学区内の保育者、教育委員会が、スタートカリキュラムについて協議する。また、1年生を受け入れる環境についても実際の教室を見ながらアイデアを出し合った。



◎協議から生まれたアイデア

空き教室を利用した、登校後に自由に遊べる環境。大きさごとに準備された空き箱や、折り紙コーナー、貼り絵コーナー等が設置されている。



◎オンライン交流コーナー

廊下には、電子黒板が設置してあり、幼児教育時の担任とのオンライン交流が図れる。新しくできた友達を紹介したり、マジックを見せてもらったり等、交流を楽しんでいた。

保幼小接続研修会(スタートカリキュラム)に参加しての感想(一部)

○幼児教育側の意見から

- ・好きな遊びが楽しめる環境や、保育者とのオンライン交流等、安心できる場づくりがなされていると感じた。学校へ行く楽しみにもつながっていると思う。

○小学校教員の意見から

- ・朝の活動のちぎり絵、ダンボール積み、工作遊び等、児童がこの時期に興味をもつ素材や活動を知ることができた。本校のスタートカリキュラムにも生かしていきたい。

○中学校教員の意見から

- ・遊びの中から新たな発見があったり、友達の良さを見つけたりする場面があり、毎日の小さな積み重ねが一人一人の成長や学級づくりにつながっていると感じました。

保幼小中連携協議会を軸とした保幼小の連携・接続

本市では、幼児児童生徒に対する、幼児教育から小学校教育、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を図るために、発達段階に応じた指導内容や指導方法を検討するとともに、早期からの一貫した教育を充実させるため、令和元年度から那珂市保幼小中連携協議会を設置している。関係する行政の代表者、校長会の小学校及び中学校の代表者、公立及び私立幼児教育施設の代表者が一堂に会し、保幼小中の効果的な接続の在り方について協議を行っている。また、協議会と同時進行で、小学校教員の保育体験を行うなど、特色ある取組を推進している。

協議会委員 ⇒ 行政関係：6名、公立幼：1名、私立幼：1名、公立保：1名、
私立保：1名、小学校：1名、中学校：1名
保育体験参加者 ⇒ 市内小学校から各1名（主に低学年担任）

■ 保幼小中連携協議会 「那珂市における保幼小中連携の今後の方向性について」

◇ 協議会委員からの意見より

- ・「幼児教育施設全体の連携を密にし、職員が1週間ずつ他園を体験するのはどうか。」
- ・「子供たちとの関わり方を、小中学校の先生たちに学んでもらいたい。」
- ・「職員同士の交流を推進し、子供の心情を理解した教育にしていかなければならない。」



■ 小学校教員による保育体験の実施

◇ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・「このような取組を今後も継続していくことが、保幼小の滑らかな接続につながっていく。」
- ・「保育園や幼稚園の職員が、小学校で授業体験をする機会があるとよい。」

◇ 小学校教員の意見から

- ・「幼児の段階でこんなに多くのことができるのに、小学校に入学した途端に赤ちゃん扱いをしてしまうのは、子供の成長にとってマイナスだと強く感じた。」



保幼小中連携協議会を土台としたネットワークを活用し、情報交換を密に行ったり、幼児教育施設での保育体験、小学校での授業体験を行ったりすることで、より連携を深めることができた。今後もこの取組を継続・発展させることで、子供たちのシームレスな学びを実現していきたい。

保幼小交流参観

～市計画訪問等を活用した保育・授業参観の実施から～



<取組の概要> **今年度の重点** 保幼小相互交流

年度当初の市指導方針説明会において、全小・中学校及び幼稚園・こども園の市計画訪問一覧表を配付するとともに、1か月前には、当日の日程表を周知した。また、幼児教育施設と小学校で連絡を取り合い、交流や体験研修等を実施していただくように通知した。

対象 市内公立幼稚園及び認定こども園・小学校
準備 計画訪問当日の各園・小学校の指導案
 ※ 日程表（体験交流及び体験研修等の場合）



■ 小学校授業参観・幼児教育施設保育参観

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識し、幼児教育施設では、遊びがどのような学びにつながっているか、また、小学校では、学びがどのように行われているかを参観の視点として相互交流を図った。

【園内リーダー及び接続コーディネーターによる参観時の様子】



<世矢幼稚園>

<久米幼稚園>

<里美小学校>

<金砂郷小学校>

■ 小学校での体験研修における協議会

○ 幼児教育施設保育者の意見から（抜粋）

- ・入学を見据えての取組について、今後も情報共有していきたい。
- ・園児の保護者から、小学校での読み書きについての不安や悩みなどが出ていることを挙げ、具体的な支援の方向性を情報交換できた。
- ・入学前の1月頃に、小学1年生の1日の様子を動画で撮影いただき、小学校との交流を広げていきたい。

○ 小学校教員の意見から（抜粋）

- ・保育者の視点を共有することができた。
- ・遊びと学びのつながりを意識していきたい。
- ・第1学年担当にならないと分からないことが多いため、校内で情報共有したい。



<金砂郷小学校での協議会の様子>

<成果>

これまで年度当初や年度末の情報交換会、行事での保幼小交流にとどまっていたが、体験研修や授業・保育参観の実施により、保幼小接続が推進された。今後は、まだ参観を実施していない園や学校に声をかけ、交流の幅を広げられるようにしていきたい。

「遊びが育てる学びの未来」を共有できる研修会

～銚田市保幼小接続担当者研修会の実践～

市内では、中学校区ごとに保幼小の連携を図り、職員同士の研修会や相互参観が進んでいる。しかし、相互参観をする際の視点に戸惑う職員が多い。そこで、フォトカンファレンスを実施し、子どもたちの姿の見取り方について研修し、相互参観及び交流・連携活動等に生かしていくこととした。

参加者 公立幼：3名、小学校：7名

準備 ・銚田市保幼小接続カリキュラム

- ・接続期の幼児・児童の活動の様子の写真（各園・小学校）→フォトカンファレンス
- ・グループワーク用ワークシート、付箋

■銚田市担当者研修会

【協議(1)】フォトカンファレンス

1 本年度担当者顔合わせ

2 協議(1)：接続期の幼児・児童の姿を共有

- ・フォトカンファレンスによる幼児・児童の見取り方を研修
→銚田市接続カリキュラムの「子どもの姿」に照らし合わせ、
どんな力が育まれているのか共有する。

※相互参観時の視点になるように



3 協議(2)：保幼小の連携・接続に関する取組について（中学校区による協議）

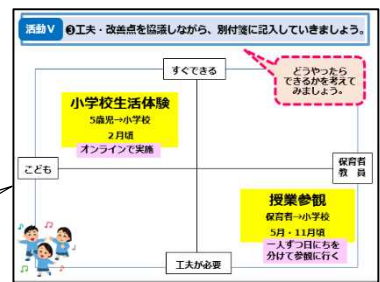
- ① 子ども同士の交流
- ② 保育者・教員の連携
- ③ ①②をさらに、「すぐに取り組めること」と「実施するには工夫が必要なこと」に分け、実施に向けた協議を行う。

できる・できないに関わらず、やってみたい
ことをできるだけあげる。

- ・コロナ禍でも取り組める工夫
- ・ICTの有効活用
- ・園・学校行事や教科等との関連

「シート」を教頭会で共有し、
管理職の理解と支援を依頼。

↓
できることから即実行！



【協議(2)】ワークシート

■相互参観及び保育体験

中学校区ごとに相互参観及び保育体験を実施

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・小学1年生の学校生活や学習の様子がよく見取れた。
- ・幼児教育施設での遊びが活かされていることを感じた。
- ・個に応じた支援ができるよう、さらに連携を深めていきたい。

○ 小学校教員の意見から

- ・幼児教育施設では、幼児の主体性を存分に生かした教育活動が行われている。幼児の実態に即して、柔軟に対応できる保育者の準備が素晴らしいと感じた。
- ・幼児教育施設における「遊び」がベースとなり、小学校での生き生きとした姿になっていることを実感できた。

【実践】相互参観・保育体験



次回の研修会では、本年度の相互参観、交流活動等の取組を振り返り、「保幼小接続カリキュラム」の見直しを行う。また、スタート期（4・5月）における相互参観の実施が課題となっているため、本年度内に計画準備を進めておき、担当者等の変更にも対応できるようにしておきたい。

保幼小連携を促す相互授業参観

守谷市では保幼小一貫教育「きらめきプロジェクト」の一環として「保・幼・小連絡協議会」の主導による、小学校と幼児教育施設の相互授業参観が行われてきた。コロナ禍において、これまでの取組が途絶えてしまわないように、新たな形での相互授業参観を模索しながら取組を進めてきた。

参加者 私立幼：1名、私立保：5名、小学校：4名
準備 授業公開の案内通知、健康観察票 等

■ 計画訪問を活用した授業参観

市内小学校の計画訪問の際に、幼児教育施設（今回はコロナ禍のため、保幼小接続担当者研修への参加者のみを対象）に授業参観の案内をした。6名の幼児教育施設の先生方による授業参観が実現した。守谷市の重点施策の一つである外国語教育に注目し、低学年の英語活動を参観した方からは、保育園でも取り入れていきたいと話していた。

特別支援学級の授業参観を希望する保育園の先生方には、市内小学校の算数科の授業を参観していただいた。授業後には、特別支援教育コーディネーターとの意見交流を行った。授業における個に応じたきめ細かな手立てや ICT 活用の状況を見て、今後の保育に生かしていきたいという感想が出されていた。今年度の取組をもとに、次年度以降は、計画的に幼児教育施設に授業参観の案内をしていきたい。



■ 市内小学校教員による公開保育参観

小学校の夏季休業を利用して、市内小学校教員による公開保育参観が実施された。今回は、市内の保育園による提案を受け、市内小学校に周知したところ、教員5名、指導主事2名による参観を実現することができた。低学年を担当する若手教員からは「あまり指示をしていないのに、園児たちは自分で考えて行動をしていた。担任している学級でも取り入れてきたい」という声が挙がっていた。

参観後には、園長先生、年長児担当の保育士、参観者による意見交流を行った。小学校の教員にとって、学び多き一日となった。



まとめ

直接その場に足を運んで、子どもたちの様子や教員の姿を見合うことが難しくなってしまった中で、試行錯誤をしながらも、今回の取組を実現することができたのはとても有意義であった。今後も相互に働きかけながら、さらに広げていくようにしたい。

幼児期の実態を踏まえ、円滑に小学校生活をスタートさせるために

～保育参観及び授業参観を通して～

遊びや生活を中心とする幼児教育と、教科等の学習を中心とする小学校教育。小学校入学時において、さまざまな変化に対応しきれず、スムーズな適応が難しい児童が見られる現状がある。そこで、保育参観と授業参観を行い、小学校入学前と後の子どもの実態の理解を深め、保幼小の接続がスムーズに行われるようにしたいと考えた。また、保育者側と小学校教員側との両方の視点から協議する場を設けることで、双方の今後の教育に生かしていきたいと考えた。

参加者 第一保育所：1名、霞ヶ浦保育園：2名、美並未来みなみこども園：1名
霞ヶ浦南小学校：2名、霞ヶ浦北小学校：2名

■保育参観及び授業参観の実践

- 6月16日 授業参観と協議（霞ヶ浦北小）
- 8月2日 保育参観（第一保育所）
- 8月4日（中止） 保育参観と協議
（美並未来みなみこども園）
- 8月9日 保育参観（霞ヶ浦保育園）
- 9月9日 授業参観（霞ヶ浦北小）
- 10月18日 授業参観（霞ヶ浦南小）

保幼小のスムーズな接続を図るために、保幼で身につけておきたい力、小学校で求めるべき力について子どもの実態を知ったり、保育者と小学校教員とで、意見交換を行ったりした。



■実践における主な意見

保育者と小学校教員の立場から、小学校入学までにつけておきたい力や配慮を要する児童について協議した。

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・ 配慮を要する児童の、保護者への現状の伝え方が難しい。小学校で指摘されて驚く保護者もいる。どこまで踏み込んで良いのかが難しい。
- ・ 引き継ぎを確実に行ったはずが、新年度が始まってから改めて問い合わせが来ることがたびたびある。担任への申し送りを確実にしたい。

○小学校教員の意見から

- ・ 液体のりの使い方に慣れるため、年長児から使用を開始するなど、入学後の作業がスムーズになるように、入学後を見据え、生活の中で取り入れてもらえるとありがたい。
- ・ 引き継ぎを担当する者が、必ずしも担任になるとは限らず、また、年度末は異動などもあるが、確実に情報共有できるように努めていく必要がある。
- ・ 園によって引き継ぎ情報に差があり、入学してから知る事実も多々ある。

相互の参観・協議を通して、子どもの実態を知り、小学校入学前後で必要となってくる力を確認することができた。今回の参観・協議を通して学んだことを生かし、幼児期に身に付いた力を小学校で伸ばせるようにしていきたい。また、引き継ぎに関しては、保幼小どちらの立場においても、改善を求める声があった。全職員に周知し、確実な引き継ぎになるよう努めていきたい。

相互参観の実施に伴う研修の機会の充実と保幼小中連携

概要

村内小中学校及び幼稚園の計画訪問の際、相互授業参観を行い、意見交流をし、保幼小中連携の充実を図る。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、直近3年間は特に保育所のみ制限)

- ・村内保幼小での計画的情報交換(年度末実施)

参加者 村立小中学校・幼稚園・保育所教職員全員・教育委員会事務局職員・村教育委員
準備 事前・・・計画訪問について(時間、場所、参加者報告等)の周知
 事後・・・感想カードの記入(実施校ごと)、参加者以外への報告、情報共有等

■ 計画訪問相互参観

各校の計画訪問のテーマに沿って実施した。新型コロナウイルス感染防止のため、予め密にならないよう事前に参加者報告をとり参観した。

授業での幼児、児童、生徒の活動等を参観し、指導者である教職員は、お互いの校種への理解や系統立てて連続して指導していくことの大切さなどを感じていた。

■ 計画訪問の感想から

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・幼稚園の時には教師の話の途中で話をする子が多く課題でしたが、落ち着いて授業を受けている姿に成長を感じました。
- ・低学年は大変だと感じました。話を聞く姿勢を保育所でもしっかりと身に付けていかなければいけないと感じました。6年生は言葉遣いや発表の仕方もしっかりとしていました。6年間の成長が感じられました。保育所の6年間の成長もすごいのですが、こうして12年間育っていくのだと思うと感動です。美浦村の子供たちがこれからも大きく育ち巣立ってほしいと改めて感じた1日となりました。保育所に戻り、このことを子供たちに伝え来年小学校に送り出したいと思います。

○ 小学校教員の意見から

- ・どの教室も壁面構成など工夫が見られ全て手作りしていました。また、教室に様々な遊び道具や幼児の興味を引きそうなものが意図的に配置されており、環境づくりがすばらしいと感じました。環境を通して幼児の学びを促進させている様子がよくわかりました。
- ・幼稚園での外国語活動の参観は初めてでとても興味深かったです。オールイングリッシュで行われ、園児も英語の指示にしっかり反応できていてとても驚きました。また、園児から発せられる英語の発音もとてもナチュラルで、幼少期から生の英語を聞いたり話したりすることはとても大切なことであることを実感し、小学校の外国語活動や外国語につなげていけたらと思いました。

まとめ・・・学校段階等間を円滑に接続する教育活動の推進につながった。

保幼小中段階での育成を目指す資質・能力の共有につながった。

計画的な相互参観を行い、教職員が系統性を意識して実態を捉え日々の教材研究や授業改善につなげることが必要であることを実感する場としていく。

小学校と幼児教育施設との関係を密にする取組

小学校と幼児教育施設の教員同士の接点は年度末の学級編成会議以外にはほとんどなく、幼児教育施設の教員は小学校に進学した子供たちがどのように学校生活を送っているのかわからない状況でした。そこで、小学校と幼児教育施設との関りを増やし、教員が互いの様子を見合うことで、共通理解を図ることができるのではないかと考えました。

参加者 町内小学校教員、町内幼児教育施設教員、教育委員会指導主事、社会教育主事

準備

- ・学習指導案
- ・校舎案内図
- ・阿見町保幼小接続カリキュラム

■「小学校授業参観のご案内」

コロナ禍、幼児が小学校訪問は難しいと考え、町内の幼児教育施設の代表者宛に、R3年度阿見町立小学校計画訪問の日程をご案内しました。参観の視点である小学校生活に慣れたかどうかを見ていただき、本人の様子で不安等何か気になったことがあればお知らせいただきたい旨を前もってお伝えしました。参観した後の感想を学校関係者にお話しくださった先生方が多かったです。予想以上に小学校に足を運んでくださりました。



■「情報交換会」

2月に情報交換会を予定していたのですが、コロナ禍で中止としました。代替として、紙面にて、引継ぎ事項をまとめ、各小学校へ提出していただきました。幼児教育施設によっては、感染予防策をしっかりと行い、対面で引継ぎを行った施設もありました。また、なかなか実施できない保幼小の研修会について、ご意見をくださる先生方もいます。

- 幼児教育施設保育者の意見から
 - ・小学校入学までにできるようになっていたほうがよいことは具体的に何か。
 - ・指導要録を町内で統一する予定はあるか。
- 小学校教員の意見から
 - ・ずっと保育参加できていなかったもので、ぜひ参観したい。



■「保幼小接続カリキュラムの研修」

これまでコロナのために実施ができなかった幼児教育施設の教員を対象にした「阿見町保幼小接続カリキュラム」についての研修会を12月までに実施する予定です。小学校に進学する前の幼児期に育ててほしい子どもの姿を各幼児教育施設の教員と確認し、小学校に入学した児童がスムーズに学校生活に適應できるよう共通理解を図っていきます。



今後は、教員だけではなく、子供たちの交流を中心に支援をしていきたいと思っております。一堂に会しての事業は難しいかと思っておりますが、工夫をしながら子供たちの成長を第一に考え、取り組んでまいります。

幼児教育と学校教育の円滑な接続のための研修会

～GIGA スクール構想によって変化する学校教育の理解～

概要・・・一人一台端末（学習用タブレット）が整備されたことにより、学校教育がどのように変化していくのかを、幼児教育施設の先生方に理解していただくため、小学校1年生の生活科の授業の中で、ICTを活用する児童の様子を公開した。

- 参加者** 私立幼稚園：2名、私立保育園：3名、小学校：3名、町保健センター：1名
- 準備**
- ・第1回保幼小連絡協議会での年間活動計画の確認
 - ・指導案の作成
 - ・開催通知
 - ・各小学校のスタートカリキュラムの見直し

■授業参観「アサガオの観察記録をタブレットのカメラ機能で」

- 実施日：令和3年7月9日（金）
- 実施場所：利根町立布川小学校
- 授業の様子について（第1学年 生活科）

アサガオの観察をする際に、これまではスケッチをして観察記録をまとめる学習活動が一般的であったが、「タブレットのカメラ機能で写真をとること」や「撮影した写真を使って観察記録をつくる」という学習活動を設定した。

入学して3か月が経過した児童が、chromebook にログインしてタブレットを操作する様子を参観した。



■授業参観後の協議内容について

- 授業参観後、参加した教員で、授業についての情報交換を行いました。その後、スタートカリキュラムの改善に向けた話し合いを行いました。
 - ① 生活科の授業を参観して

タブレット活用が1年生でも行われていることに保育園・幼稚園の先生方は驚いていました。児童の学び方が大きく変化していることについて研修を深めました。

また、主に幼稚園・保育園の取組と、小学校の生活科の共通点について協議しました。
 - ② スタートカリキュラムの改善に向けて

各小学校の入学式から1週間のスタートカリキュラムを活用した取組の報告がありました。

また、それぞれの園や学校での取組について情報交換を行いました。

利根町のよさは、コンパクトな町の利点を生かして、5つの幼児教育施設と3つの小学校が力を合わせて子どもたちの成長を応援できるところです。令和5年度には小学校が1校に統合されるため、保幼小の円滑な接続は、ますます進展するものと期待が膨らみます。

子どもの育ちをつなげる「保幼小連携」について

〈取組の概要〉

下妻市では年3回「保幼小連携協議会」を実施し、市教育委員会幼児教育担当者、家庭教育担当者、全保育園、幼稚園、認定こども園の園内リーダーや、小学校の接続コーディネーターが参集し、意見交換や情報共有ができる場がある。そこで、相互理解のもと教育内容の改善につなげる取組が行われている。これまでの取組は、小学校の行事に参加するという交流が多かったが、児童や小学校教員が保育参加や参観をし、幼児期の育ちや経験が小学校教育につながる姿を捉えられるような交流を行っている。

〈参加者〉公立・私立保育園6名、公立・私立幼稚園17名、私立認定こども園3名、小学校18名、教育委員会5名 合計49名

◆「保幼小連携協議会」

市指導課指導主事より、特別支援教育についての講義の後、就学について、幼児教育施設と小学校の捉え方や就学後の園児の様子を含めた情報など、保育と教育をつなげるためのグループ協議を行った。

協議における主な意見

○幼児教育施設職員から

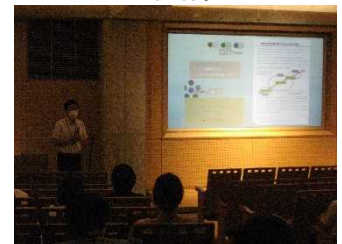
- ・個別の教育支援計画の形式、作成の仕方について知ることができた。
- ・小学校入学後の心配な点があったが、小学校の様子を知ることができ安心できた。
- ・小学校での姿や活動を幼児教育施設の職員が知ること、就学に向けて日々の活動のヒントになった。
- ・就学前の園児の育ちや気持ちを伝えることができた。

○小学校職員から

- ・同じ小学校区で、気になる子について、入学前後の姿の情報を相互に共有することができ、大変参考になった。
- ・情報交換したことをもとに、今後も保育園・幼稚園・認定こども園との交流を計画し実施したい。
- ・入学前に一緒に活動をすることで、園児の就学への不安軽減につなげたい。

○見えてきた課題

- ・成長の連続性のために、双方の姿や活動を言葉で伝え合うだけでなく、実際に参観し合う必要性を強く感じた。
- ・一人一人の特性を理解し、必要な支援をしていくには、幼児期の支援を参考にしながら小学校での支援計画を作成する必要があると思った。



◆「秋フェスティバルにようこそ」～1年生を招待～

- ・幼稚園側の遊びを中心とした活動に、1年生が参加をした。子供達が共通の目的に向かって、友達と相談したり協力したりしながら遊びを進め、楽しむ姿を小学校教員に観てもらった。



○小学校職員から

- ・園児でも友達と話し合っ、遊びを発展していることに驚いた。
- ・幼稚園の先生が、手伝っていることが多いと思ったが、様々な道具を使って、お店や品物を作っていたことが驚いた。
- ・お店で自分の役割を理解し、遊びのルールを守っている姿に感心した。

〈まとめ〉

- ・保幼小で意見交換や情報共有ができ、就学前後の子供の姿を知ることができた。
- ・保育園、幼稚園、認定こども園からの働きかけを多くし、保育参観をもっとできると良い。
- ・幼児理解のため、年長児と1年生の担任が情報交換できる時間を確保すると良い。
- ・今後、相互のカリキュラムについて、一緒に検討していくと良い。

筑西市保幼小連絡協議会の運営

～相互参観・情報交換会・研修会等の企画・実践～

筑西市保幼小連絡協議会事務局は、幼児教育施設と小学校が情報共有し、相互理解を深めながら、幼児教育の振興並びに会員の連携・親睦を図ることを目的として企画・運営している。

役員 幼児教育施設役員 5名（私立・公立含） 小学校 校長 1名
会員 筑西市内幼児教育施設 27園 全職員 筑西市内小学校 27校 全職員
事務局 筑西市教育委員会 指導課



■年2回の役員会開催 「年間を通じた活動の見通しと改善点等の確認」

○ 第1回役員会の内容（令和4年4月6日）

- ・内容 役員決定、会則や推進資料確認、年間計画の提示と昨年度の反省。

役員は、公立園等から1名、私立保育園から2名、幼保連携型・幼稚園型認定こども園から2名、小学校長から1名、計6名。

○ 第2回役員会の内容（令和5年3月10日）

- ・内容 事業についての経過報告、保幼小連絡協議会役員の見直し、研修会予定確認。

■年3回の研修会実施 「保幼小接続に関する取組の充実に向けた研修会」

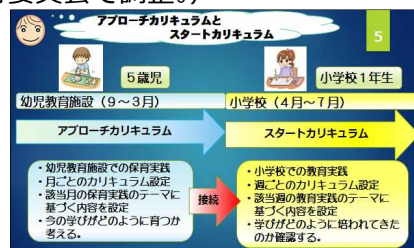
○ 第1回研修会の内容（参加者：幼児教育施設関係者）

- ・期間 令和4年5月から7月頃まで（各学校と市教育委員会で調整。）

・研修内容

授業参観（各幼児教育施設から参加。）

「茨城県保幼小接続カリキュラム」の「小学校入学期～1学期の終わり」に示された「具体的な子どもの姿」との関連を明確にしたうえで、小学校1年生の授業を公開する。



協議・情報交換会 接続の在り方の改善点について、管理職、1年生担任が話し合う。

○ 第2回研修会の内容（今年度は園内リーダー対象。）

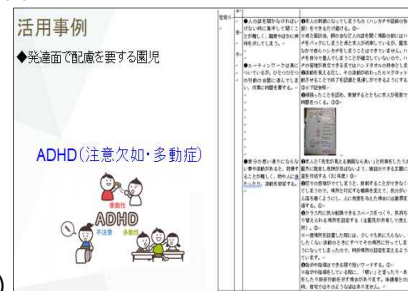
- ・日時 令和4年7月26日

・研修内容

個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成について（筑西市教育委員会 指導課）

個別の教育支援計画の活用事例

（幼保連携型認定こども園 たけのこ保育園 尾見泰延氏）



○ 第3回研修会の内容（参加者：小学校関係者）

- ・期間 令和5年1月から2月上旬（各幼児教育施設と市教育委員会で調整。）

・研修内容

保育参観（各学校から1名限定参加。）

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「茨城県保幼小接続カリキュラム」の「幼児期の終わり」に示された「具体的な子どもの姿」との関連を柱に情報交換することで、「架け橋期」の教育を充実させる。

情報交換会 新学齢児について情報交換する。

保幼小の円滑な接続のためには、組織的な取組の体制づくりが大切である。今後、「幼保小の架け橋プログラム」実施に向けて、「基盤づくり」から「検討・開発」に取り組む必要がある。

幼児教育施設園内リーダーや保幼小接続コーディネーターの 取り組みについて

取り組みの概要

保幼小が協働し、共通の視点をもって教育課程や指導計画等を具体化できるよう相互参観を実施。保育者は近隣の小学校を、小学校教員は近隣の幼児教育施設を参観することで、幼児教育と小学校教育の相互理解を図る。また、児童と園児の交流の場を設定し、子供同士の自発的な関わりを育む。

保育参観・授業参観

○参加者：各小学校区にある幼児教育施設の先生方

各小学校の1年生担任、または特別支援教育コーディネーターの先生方

○環境設定と児童の様子

- ・ 前面黒板側に掲示物が少なく、正面がすっきりしている。
- ・ 廊下の作品掲示に工夫がある。(工夫したところ、頑張ったところが記入され、先生のメッセージも添えてある)
- ・ ロッカー等学習用具を片付ける位置が決まっていて、整理整頓が行き届いている。
- ・ その時間の学習の流れが示され、児童が見通しを持って学習に取り組んでいる。
- ・ ICT 機器が効果的に活用されている。(1人1台端末、大型テレビなど)
- ・ 発表・発言している人の方に体を向けて話を聞いている。
- ・ 意見を発表する時は「はい」と返事をしてから発言する。
- ・ 積極的に挙手をする姿が見られ、担任は全ての考えを受け入れ共感している。
- ・ 机上に教科書やノートを置く位置が統一されている。

○幼児教育施設保育者の意見から

- ・ 園での経験を重ね、安心感と期待感をもって入学できるよう努めるとともに、幼小接続の重要性を実感した。
- ・ 「遊びの中で学ぶ」を意識し、語彙力の向上や自己発揮に期待できることを継続していく。
- ・ 就学までに育てたい10の姿やアプローチカリキュラムの見直し等今後の課題について話した。

幼児と児童の交流

○活動内容

- ・ 1・2年生の生活科の校外学習として歩く会を実施。学校近くの幼児教育施設に隣接する公園で園児と触れ合う。
- ・ 幼児が歩いて近隣の小学校を訪問し、保幼小交流を深める。

今後の予定

○就学時健診に向けての情報共有や、入学前の新入児童情報交換会の実施。

○小学校において、1年生と入学予定の幼児との集会を行い、学校の様子を紹介する。

まとめ

コロナ禍で実施できなかった交流等も段階的に取り入れながら、保幼小交流をより深めていき、よりよい接続関係を築いていきたい。また、年度末の引き継ぎについては特に慎重に行い、しっかりと情報共有を図る必要がある。

保幼小中連携・接続推進のための保育と授業の相互参観 － 0～15歳の学びをつなぐ交流と共有を目指して －

『幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（令和4年3月31日 文部科学省）』では「義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間（架け橋期）を、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期」としつつ、「0～18歳の学びの連続性」にも配慮することを示している。高等学校を有しない本町では、中学校卒業の15歳までに、自立して生きるための学力と社会性を育むことを目標としている。この目標に向かって、架け橋期を中心に据えながら、15年間の学びの連続性に配慮した取組を行うこととした。保幼小の相互参観に留まらず小小、小中、保幼中の連携・接続も積極的に推進し、学びをつなぐ交流と共有を進めている。

参加者	私立こども園4名、小学校5名（保幼小中連携・接続推進事業担当校長も含む）、中学校4名、教育委員会事務局3名、家庭教育支援員7名
準備等	アプローチカリキュラムの実施状況等の共有、スタートカリキュラムの再周知（3月） 保幼小中連携・接続推進協議会、家庭教育支援推進協議会同時開催（5月） 保育と授業の相互参観（6月、9月、12月） 第1回保幼小中連携・接続担当者会議の開催（7月） 保幼小中連携・接続研修会の開催（8月、幼保小の架け橋プログラムについて） 第2回保幼小中連携・接続担当者会議の開催（2月）

■ 授業参観、保育参観

- ・各園、各校の参加人数を限定して実施
- ・全戸訪問で就学前から関わりのある家庭教育支援員も参観
- ・参観後は研究協議を行わず、意見・感想を事務局で集約し、後日、オンラインで研修会を実施
- ・振り返りシートは、こども園、小学校、中学校それぞれの参観の視点を記載したものを使用



■ 担当者会議（オンライン開催）

- **小学校での授業参観において挙げた意見・感想**
 - ・自分の意見を伝える力について幼児期からの積み重ねを感じた
 - ・特性によって工夫は必要だが、やはり可視化は効果的だと感じた
 - ・グループで話合うことの段階的な育成が必要だと感じた
- **中学校での授業参観において挙げた意見・感想**
 - ・「自ら…」という主体性を段階的に育む必要を感じた
 - ・「○○さん」などの呼称について幼児期から考えていく必要がある
 - ・ICTに慣れることについて疑問がたくさんあるので保幼小で協議していきたい



本町の保幼小連携・接続の実践は、令和3年3月に策定した「五霞町版保幼小接続カリキュラム（アプローチカリキュラム＋スタートカリキュラム）」を中心に据え、相互参観、担当者会議、夏季研修、情報交換会、家庭教育との連携等の取組と関連させながら推進している。今回は、相互参観について紹介をさせていただいたが、どの取組も相互に関連させることで効果を発揮するものである。「架け橋期」と「学びの連続性」の意図を全員で共有し、自立して生きるための学力と社会性を育てていきたい。